

## 第105回総務委員会と経産省ヒアリング記録

1. 開催日時 平成23年9月15日(木)
- |       |            |          |
|-------|------------|----------|
| 11:00 | 第105回総務委員会 | 鉄鋼会館 806 |
| 14:00 | 経産省ヒアリング   | 経産省会議室   |
| 15:30 | 業界紙記者と懇談   | 当組合事務所   |

### 2. 第105回総務委員会

#### 出席者

吉里 勉 (理事総務委員長)  
高木 建 (理事長)  
酒匂雅信 (副理事長・東京支部長)  
林 光雄 (副理事長・東海支部長)  
木村秀明 (副理事長・大阪支部長)  
柘野 (事務局)

#### 議 題

- (1) 経済産業省ヒアリング資料の検討について
- (2) 理事の交替について
- (3) 組合員・賛助会員の入脱会について
- (4) 第2回「全国青年交流会」の開催概要について
- (5) 熱切断作業の品質と安全講習会の開催結果
- (6) 第37期通常総会の開催日時・場所について
- (7) 平成24年新年賀詞交歓会の開催要領について
- (8) 今後の会合予定について

#### 経 過

吉里委員長の司会により議事が進められた。

#### (1) 経済産業省ヒアリング資料の検討について

事務局より標記資料について説明、一部内容修正の上了承された。

(資料は別項参照)

#### (2) 理事の交替について

去る7月15日、書面による臨時総会を開催し、理事の補欠選任を行った。この結果、170社中、139社の賛成を得て、両氏が新理事に選任された。

##### ・新任理事

東 和彦 (神鋼鋼板加工(株) 代表取締役社長)

岡 勝彦 (東海鋼材工業(株) 参与)

##### ・退任理事

八十川雅明 (神鋼鋼板加工(株) 前代表取締役社長)

高田 克己 (東海鋼材工業(株) 前取締役)

なお、両理事の任期は前任者の残任期間となる。

### (3) 組合員の入脱会状況について

事務局より、23年度の組合員及び賛助会員の異動状況について以下の通り報告があり、了承された。

組合員の入会は2社（23年10月1日付け）、脱会が3社。また、賛助会員の入会は1社、脱会が1社。

この結果、23年10月時点の組合員数は165社・6事業所、賛助会員数は22社・1団体。

### (4) 第2回「全国青年交流会」の開催概要(案)について

事務局より、標記青年交流会の開催概要について説明があり、審議の結果、了承された。

- ・ 目的 全国各支部の若手経営者及び幹部有志が一堂に会し、意見交換や事例研修等を通して見識を広めるとともに、情報の相互共有化を推進する。
- ・ 開催日 平成23年10月14日(金)
- ・ 場 所 名古屋国際ホテル2F
- ・ スケジュール
  - 13:00～16:45 見学会  
①名古屋城、②トヨタ産業技術記念館等
  - 17:10～18:30 地区情勢懇談会
  - 18:40～20:00 交流パーティ
- ・ 参加予定者数 48名（来賓等を含む）

### (5) 熱切断作業の品質と安全講習会の開催結果

標記講習会は、当組合と溶接協会の共催で、8月26日、東海市立商工センターにおいて開催された。参加者総数は、48名で、うち当組合員は15社・29名が参加した。次回は、来年8月、東京で開催の予定。

### (6) 次期（第37期）通常総会の開催日時・場所について

次期通常総会の開催日は、平成24年5月18日（金）で了承された。開催場所は、当委員会案としては、前36期総会の当初の開催地で、震災により中止となった「高知市」を再度提案することとし、10月理事会に諮ったうえで、最終決定することになった。

### (7) 平成24年新年賀詞交歓会の開催要領について

来年の鉄鋼流通団体合同の賀詞交歓会は、24年1月13日(金)17時より、ロイヤルパークホテルで開催される。今回の幹事団体は、輪番により当工業組合が担当する。高木理事長の主催者挨拶、酒匂東京支部長の中締め挨拶、吉里理事総務委員長の司会により進行することが了承された。

### (8) 今後の会合予定について

本誌1ページに掲載の「会合予定表」をご参照ください。

## 3. 3Q経済産業省ヒアリング

出席者

経済産業省

塩田鉄鋼課長、葛岡課長補佐、石神係長他

厚板シャ工組

高木理事長、酒匂東京支部長、林東海支部長、木村大阪支部長、  
吉里理事総務委員長、柘野（事務局）

経過

最初に、高木理事長より、「建機向けは足元絶好調で、底這ばっていた橋梁・建築向けにも徐々に光がさしきており、需要環境は好転しつつある。ただし、建設需要がシャの仕事に繋がるまでにはタイムラグがあり、この下期をいかに耐え忍ぶかが問題である。切板需要の過半を占める建設関連需要は、鉄骨需要量は前年度並みの420万～430万ト程度、橋梁需要量も横ばいの28万ト程度が見込まれる。橋梁の入札は9月以降に出てくる見通しで、首都圏の大型建築案件は来年の1月以降に本格始動すると見られる。震災の復興需要の台頭はまだ先であり、行政当局には引き続き内需喚起の重点施策を早急に打ち出していきたい。」との挨拶があった。

続いて、各支部長から地区情勢報告があった後、種々意見が交換が行われた。

以上